

うたがき

筑波大学附属図書館 ボランティア広報紙



第 28 号 2018 年 10 月発行



CONTENTS

- ①活動の場から
- ②新しい風
- ③フィールドワーク
- 2018. 4 月～9 月
- ④おすすめスポット



活動の場から

その4 ～対面朗読～

筑波大学附属図書館ボランティアには、「対面朗読」という活動があります。これは、身体障害者に対する図書館利用支援活動のひとつで、主に視覚障害者など、書籍、雑誌等の資料を利用することが困難な利用者の目の代わりを務めるものです。このサービスのために、遮音され、個別空調設備も整った対面朗読室が 2 部屋用意されています。また、この部屋には検索用のパソコン、拡大読書器、各種参考書等が置かれています。

対面朗読活動には、資料を正確に速く読み上げる資質が求められるのは勿論のこと、幅広い知識、識字力、資料検索力、また、図表やグラフ、数式、写真、イラストなど、視覚に訴える表記を文章化して伝える能力も求められます。加えて、対人サービスという性格上、利用者のニーズを的確に把握でき、柔軟に対応できる力も大切です。あくまでも利用者が主体で、読み手は黒子に徹する必要があります。

利用者の方が図書館資料を研究や教育に存分に活用して頂けるよう、より良い活動を目指して学び合っていきたいと思っています。



新しい風

今年度の新人さんに
活動の感想を書いて頂きました

フィールドワーク

2018 4月～9月

筑波大学体育総合実験棟見学

大学図書館で見つけた本の魅力

環境整備を始めて2ヶ月ほど経ちました。

その活動中に感じたことがあります。それは、配架されているどの本も必要とされ大切にされていて、とても居心地が良さそうということです。古い本も丁寧に修理されていて、読みやすいです。こう感じるのは修理担当の皆さんが熱心に作業して下さるおかげだと思います。

また、たくさんの本を前にして、様々な大きさ、装丁やユニークな題名に心が奪われることがあります。

「こんな小さな本があるなんて…」

「この装丁はすごく素敵！」などと一人で呟くこともあります。

普段、市立図書館では目にすることのない珍しい本がたくさんあるので新鮮です。好みの本を見つけた時はまるで雑貨屋さんで可愛い小物を見つけた時のようなワクワクした気持ちになります。また、好奇心をくすぐる題名の本があると読んでみたくなり、興味の幅も以前より広がったように思います。

環境整備の活動を始める前は分からなかった魅力がたくさんあり、とても楽しく作業していますが、まだまだ不慣れで時間がかかってしまいます。

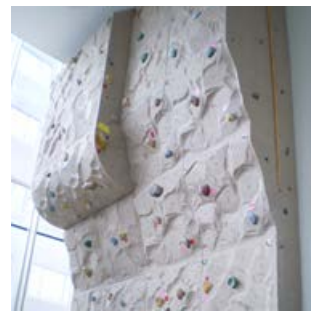
もっと効率良く出来るように頑張りたいです。(A.N)



7月4日 フォローアップ研修として体育総合実験棟 SPEC (Sport Performance and Clinic Lab) を見学しました。

物理療法実験室、水治療法実験室で、様々なリハビリ機器、一人用の遠赤外線サウナやワールプール（噴流風呂）などを見学。用途により形状の違う氷を作るために2台の製氷機まで設置されているのに感心しました。

マシン・リハビリトレーニングルームは、私の知る限りの病院リハビリ室やジムより大きく、機器の種類も多かったです。無重力、月面歩行トレーニングマシンもありました。その中で一人だけトレーニングしていた、薫科先生のサポートを受けているパラバドミントンの藤原大輔選手の話伺いました。2020年パラリ



ンピックでの活躍を期待しましょう。

1階の多目的実験ゾーンに移動。クライミングウォールがあり、色違いのマークが所々に付いていたのは、どのコースで登るか調べ、足を置く位置を変えるためだそうです。

バイオメカニクスデータを収集するために、テコンドー用人形やラケット、ピッチングマシンなどを使い、それらの動作を一台何百万円もするカメラで撮影しパソコンに送り、棒人間の形にしたり、コマ送りにしたりして分析します。選手の技術獲得や指導法に役立つもので、テレビでも見たことがあります。

2階に戻り、捻挫歴のあるボランティアが大学院生による足首のテーピングの体験もしました。

色々質問も出て、1時間の予定を少しオーバーし、参加者21人の記念写真を撮って解散しました。



SPEC 内部の様子

～おりがみ講習会～



7月4日(水)のおりがみ講習会は「くす玉」を作りました。12枚のユニットで球体に

組み立てます。今回は遅れて参加した方たちも完成できるように事前にユニットをたくさん用意して当日を迎えました。私個人としては、組み立てるのにかなりの時間を要したのですが、苦もなく完成させた方は、30枚のユニットで球体を作ることに挑戦しました。友人のオーストラリアからの留学生にプレゼントされるということでした。

車椅子の方も参加されて、完成した作品を持ち帰ることができました。たくさん用意したユニットも足りなくなるほどでした。

もっと講習会の回数を増やして欲しいという要望がありました。次回の開催日時の希望を、参加者からのアンケート等で参考にする事ができたらいいなと思いました。(S.N)



～学内おすすめスポット～

図書館でボランティア活動を始めて20年以上が経ってしまいました。最初はちょっとのぞき見のようなつもりだったのですが、そこに集まっている個性豊かなメンバーとキャンパス内の並木道に魅了されて思わず長居してしまいました。始めたばかりはシステムを整える状態だったので戸惑うことも多かったのですが、慣れるに従いキャンパス内も自由に動き回れるようになって、帰りにいろいろな道を通るうちに見事な木々に巡り合い、それが一番の楽しみになっていました。



メタセコイア 黄葉の始まり

一番のお気に入りは何といても一の矢宿舎近くのメタセコイアの並木道です。

春の新緑、秋の赤銅色に輝く木々は本当に大好きです。私の乏しい経験の中で、こんなに長いメタセコイアの並木道は日本にないと思います。その時期は丁度次年度のボランティア活動の意向調査と重なり、来年はどうしようかとの迷いをメタセコイアの赤銅色が一気に吹き飛ばしてくれ、ここまで来てしまいました。

素敵なお並木道、木々はまだまだ沢山あるのですがまたの機会にお話ししたいと思います。今年は是非皆さんに秋のメタセコイア並木を楽しんでいただけたら嬉しいです。

(K.Y)



赤銅色のメタセコイア

主な活動・・・こんなことをしています

ボランティアは中央図書館と体育・芸術図書館で活動しています。活動時間は毎週月曜日から金曜日の10時から16時(午前のシフトは10:00～13:00、午後のシフトは13:00～16:00)です。
現在、つくば市及びその近郊の市民、約50名が活動しています。



総合案内

図書館利用者すべてに対する、館内の資料配置の案内やパソコンによる資料検索の手伝い。館内巡回。



利用環境整備(シェルフリーディング)

中央図書館及び体育・芸術図書館の書架の整理や、不明図書の探索、図書ラベルの補修。



美術展ポスター整理(体育・芸術図書館にて)

全国の美術館・博物館から送られてくる展覧会ポスターの掲示とデータベース化。



図書修理

専門的な製本技術を使った図書の修理。



見学案内

新入生、留学生、中高生、一般、海外からの見学者に図書館を案内する。



対面朗読

視覚障害者のための対面朗読。館内での資料探索の支援。



日本文化紹介

月1回の勉強会と、年3～4回の主に留学生を対象とした折り紙講習会。新年かるた会。



広報

広報誌「うたがき」、「図・ボラの会」会報の発行。



☆うたがきのあとがき

新生うたがき第4号をお届けします。今回は、特に「対面朗読」という大学図書館ならではの活動と、広いキャンパス内の豊かな自然のほんの一部を紹介させていただきました。窓の外に広がる緑に、疲れた頭と目が癒されます。図書館内部のちょっと変わった景色もお届けします。

編集:筑波大学附属図書館ボランティア広報部
発行:筑波大学附属図書館
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
TEL 029-853-2348 (アカデミックサポート課)

開かれた大学図書館として広く学外の利用者の方々に開放しています。

詳しくは、<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp> をご覧ください。

* 筑波は、遙か昔に歌垣の習俗があった地。色々な人の声を聞き応え合うことで繋がり、発展を生み出すことを望み、広報誌「うたがき」としました。